

特集 あらためてBzRAsのメリットとデメリットを考える!

薬局

THE
JOURNAL of
PRACTICAL
PHARMACY

11
2015
Vol.66
No.12

特集

Bz受容体 アゴニスト

使いこなすために押さえておきたいポイント

BzRAsの過去・現在・未来

わが国における BzRAs 処方の実態と臨床的課題

BzRAsのPK-PDとBzRAs間の違いを徹底理解!

BzRAsのエビデンスと実臨床における位置づけ!

BzRAsによる乱用・依存! 考え方・対応のポイント!

BzRAs適正使用に向けた薬剤師の役割

連載

目指せ感染症マスター! 副作用・相互作用マネジメントの超実践アプローチ
めまいを訴える20代の女性患者

薬剤師よ、心電図を読もう!

薬剤師こそ Sicilian Gambit 分類を極めよ

医療マンダラ ~思考と感性のセンスを磨く~

Placeboの日本語訳として一般に使用されている「偽薬」は誤訳だ!

南山堂

特集にあたって

1960年代初頭に登場したクロルジアゼポキシドに始まるベンゾジアゼピン受容体アゴニスト(BzRAs)の歴史は長い。BzRAsはすでにわが国の医療の中で定着し、医師であれば処方したことの無い者はいないほど、特定の診療領域を超えて広く使用される薬剤となっている。BzRAsは、それ以前から存在したバルビツレートやメプロバメートより安全性がはるかに高いので、比較的安心して使用できる薬剤ではあるが、重大な問題が表面化しないがために、かえって有効性については過大評価が、有害事象については過小評価がされてきた。その結果、わが国は世界で類を見ないほどのBzRAs使用大国になってしまったという現実が存在する。睡眠薬の多剤併用が保険診療上の減点対象となったことは記憶に新しい。

そこで、本特集では、あらためて薬剤としてのBzRAsの特性を振り返り、この薬剤の“等身大”の姿を再確認することとした。BzRAsを適正に使用していくためには、その副作用を理解しておくことが重要であるが、わが国の実情ではこの点が不十分のように思われる。特に、依存性に関しては、わが国の医療体制が物質依存に対しては脆弱であることも相まって、医療者の理解が乏しい領域である。しかし、BzRAs依存は医療の場面で生じるものなのであり、非合法薬剤などのそれとは異なる臨床上の重大性があると認識する必要がある。そこで、BzRAs依存に関しては特に誌面を割き、その実態や対応法について詳しくまとめることとした。

執筆陣はこの領域に造詣の深い方々ばかりで、本特集が多くの医療者にとって有意義なものとなったことを確信している。また、この特集を通じて、日本の医療の向上に少しでもお役に立てれば幸甚である。

石郷岡 純

東京女子医科大学 精神医学講座 教授・講座主任